

書 評

廣川信隆 監修／前田恵理子 著

解剖実習室へようこそ

内山 安男(大阪大学教授・機能形態学)

医学生にとって解剖学実習は通らねばならぬ登竜門です。肉眼(系統)解剖と顕微(組織)解剖を終えると、医学生としての共通の言語を理解し、基礎医学・臨床医学の勉強に親近感を覚えるようになります。特に、肉眼解剖は、人体の構造を理解するとどまらず、生命について、また、医学について多くを考えることになるため、精神的にもインパクトのあるカリキュラムです。

医学生がこのような肉眼解剖を学ぶにあたっては、現今、たくさんの教科書が用意されています。実習書も図譜もたくさんあります。これらは、解剖学実習を進めるうえで必需品です。しかし、予習のため実習書を読み、教科書・図譜を参考に勉強して、いざ実習室に行っても、なかなか思うような解剖学実習はできません。皮膚、皮下組織、筋膜、筋、骨、その間に、神経と血管が走り、体幹には臓器が入っており、確かに机上の勉強ではまったくわからないことだらけで、実習を進めることになります。その意味で、臨床研修と同様に、インストラクターが必要になります。

解剖学実習を行うときに、2つの重要な理解の進め方があるのに気がつきます。1つは、構造を系統(個体)発生学的に理解して、それが生物学的にもつ意味を考察することです。これは、非常に大変です。なかなか適切な指導者も育っていないのが現状です。また、医学だけの問題ではなく、広く生命科学の理解を深めるために必要なことがらでもあります。肉眼解剖を専門とする研究者がすべてこの立場で研究に従事している訳ではありません。この立場の基本的な考え方(事実)は、解剖学実習の理解を深めるために重要です。もう1つは、臨床的な立場から解剖学実習を進めるものであります。私は学生が実習している所で「解剖実習をいかにしたらより充実した実習にできるのか」は、君たちが一番よくわかることです。まとめて、本にでもしませんか」

としばしば言っている通り、そんな折、本書をみてその先見の深さに驚きました。

前田恵理子著『解剖実習室へようこそ』は、まさに学生実習を進める医学生に必読書として薦めたい本です。著者も言っている通り、本書は決して教科書でも実習書でもありません。また、完結した本でもありません。どちらかと言うと、発展途上の本です。しかしその発想で、今まで私達教える側に欠けていたことを強く主張する本です。学生が医学生として当然もったら面白く実習できる、という点を見事についています。臨床の専門家から非常に適切なアドバイスも入っていますので、局所解剖の解析のしかたがとてもユニークにまとめあげられています。著者が記載しているように、学生の意見が発想の根底にあります。目線が学生の立場にあるため、フットワークが非常に軽く、局所の理解を進めることができるように工夫されています。発展途上にあると述べた通り、課題は必ず増えていきますし、医学生の医学生による医学生のための必読書としてこれから育っていく本だと思います。ただ現在のサイズは手頃で、この発想が非常に重要であるという点を学生に適切に伝えられるものと思います。

本書は基本的に臨床局所解剖の形式を取るため、イントロダクションを含めて6つの領域にわけられます。各セクションで最も基本となる問いかけをし、それを説明する形式で話を進めています。ですから実習する医学生は、各領域でどのような臨床の場が繰り広げられ、それが解剖の作業とどのように絡んでくるのかを考えさせられ、楽しくなります。その意味で、本書はヒット作であると思います。本書を企画し、それを精力的に仕上げた著者に心からエールを贈りたいと思います。

(B5判 224頁 定価3,990円(本体3,800円+税5%))
2005年 医学書院 刊